

### 13. 焼石・集石土坑について

この遺跡では焼石・集石土坑については、11基確認された。それ以外に掘り方のしっかりした深い土坑で中間の層からまとまって出てくるものも含めても13基と比較的少ない。その多くに共通していることは礫は地山に入っている粗粒輝石安山岩を使用しており、多かれ少なかれ焼けているということである。しかも、円礫を用いるものは少なく、やや大形の亜角礫を使用しているという点である。

掘り方と礫の分布のあり方を見るといくつかのパターンがあることがわかる。平面的には、①掘り方一杯に詰めるように焼け礫が出てくるもの（88号土坑・181号土坑・182号土坑・445号土坑）、②掘り方の中心もしくはある一ヶ所の上に礫が集中するもの（87号土坑・102号土坑・99号土坑）、③やや掘り方の中心に集中するものの散在的にその周りにも分布するもの（121号土坑・446号土坑・186号土坑）に分けられる。また、礫の大小について見たときには、①周辺に大きいものを配し、中心に細かいものを入れるもの（445号土坑）、②下にやや大形礫を置いてからその上に小形礫を置くもの（88号土坑）、③下に小形礫を置いてからその上にやや大形礫を置くもの（99号土坑・182号土坑）、④比較的同じ大きさの礫を配置には関係なく入れるもの（87号土坑・102号土坑・181号土坑・184号土坑）、⑤大・中・小の礫を取り混ぜて配置に関係なく入れるもの（121号土坑）に分類される。断面を見たときには、①底面との間にかなりの間層があり、土坑を完全に埋めたかもしくは埋まった後その上に礫を置いたもの、②底面との間に全く間層がなく、底面にぴったりと付くように礫が入っているもの、③底面との間に僅かに間層のあるものに分けられる。また、掘り方の深さを見た場合には、①きちんとした掘り方を持つがそれほど深くないもの、②浅い皿状の掘り方を持つもの、③50cmを越えるような深い掘り方をもつものの3つに分けられる。この③については、本文中の土坑の説明のところでは焼石土坑としては扱わなかった。そ

れは土層のある面から礫がまとまって出てくるものであり、別の目的で掘られた土坑をある程度埋めたもしくは埋まった段階で、どこか別の場所、たぶんあまり遠くないところで使ったものを廃棄したものと考えられるからである。375号土坑の場合には小形の円礫を多く出土しており、他の土坑のように地山の亜角礫を用いていないことが相違している。374号土坑の場合には礫の合間やその上から多くの縄文土器片が出土しており、明らかに土器がまったくもしくはほとんど混じらない他の焼石土坑とは違うものである。これらは土坑本来の目的とは違う二次的な使用の結果生じたものと思われる。

ここでもう少し本遺跡内の焼石・集石土坑についての特徴をもう少し整理してみたいと思う。

#### 1 使用礫について

地山の礫である粗粒輝石安山岩を用いているということ。小形の礫よりも比較的大形の礫が多く用いられていること。

#### 2 礫の状態について

いずれも赤変もしくは黒変しており、焼けた痕跡があること。あるいは被熱したことによるひび割れが見られること。

#### 3 礫の配置や入り方について

①大形の礫を周りや下に配置し、その中に小形の礫を入れるものと②小形の礫を敷いた後に大形の礫を載せるものがあること。

#### 4 掘り方と礫の入り方について

①掘り方の底面との間に隙間なくぴったりと付いた状態で礫が配されるものと②底面との間にわずかに隙間はあるものの底面近くまで礫の入るものであり、掘り方を掘った後に底面を均した上で礫を配したと考えられるもの、③掘り方との間に大きく隙間のあくものであり、掘り方が埋まったもしくは埋められた後に礫が載せられたと考えられるものがあること。

#### 5 遺物について

①石器が共伴するものであり、凹石の二次的な利用品が含まれるものと②土器破片が多く共伴するも

のがあること。

以上1～5の点について整理してまとめたが、そのことによりある程度の特徴とパターン分けができたと思う。もう一つ念頭に入れて置かなければならないのは単独の炉の存在である。本遺跡の場合には包含層の途中の比較的高い位置の途中から掘り込まれた単独の炉が数基確認されたが、これがもしかしたら焼石土坑となんらかの関連性があるものかもしれない。焼石土坑もどちらかというと住居跡や他の土坑を切り込んで作られているものが多く、土器を伴っているものが少ないのではっきりしない面もあるが、いずれも主体となる中期中葉の住居群や土坑群と同じかそれよりもやや新しいものが多いのではないかと考えられる。焼石がその場所で焼かれたものなのか、別の場所で焼かれたものなのかはここで行ったパターン分析からだけではわからない。調査現場での土層中の炭化物の入り方の検討や礫の焼け具合、特に表面だけが焼けているとか、全面が焼けているとか炭化物やタール状の付着物の有無であるとかの詳細な観察が必要となってくる。また、土坑そのものの焼けている位置や焼けている程度の差の検討等も必要となってくる。しかし、調査時点においてはとにかく早く終わらせることに終始し、そこまでの時間が取れないのが現状であろう。そこで、今後こうした土坑を調査する機会があったらそれらのことに充分注意してやることにして、焼石土坑はどういう行動の結果生じたものか難しい点はあるが、ここでは一般的に言われているように調理の痕跡として仮定し、その過程を復原し、検討を加えてみたい。

#### 焼石土坑の復原 1

- ① 土坑を掘る  
地面を掘り窪め穴の大きさを決める。
- ② 底に礫を置く  
底面にやや大形（小形）の礫を並べる
- ③ 材を入れ火を焚く  
底面に並べた礫を焼く

#### ④ 礫を入れ焼く

更に火を焚きながら別（大形もしくは小形）の礫を焼く

- ⑤ 礫が熱せられたところで葉に包んだ食料を置く
- ⑥ 草や土をかけて蒸し焼きにする  
適当な時間蒸し上げる。

#### 焼石土坑の復原 2

- ① 土坑を掘る  
地面を掘り窪め穴の大きさを決める。
- ② 材を入れ火を焚く
- ③ 火の中に礫を入れる
- ④ 底面に焼けた礫を並べる
- ⑤ 更に火を焚きながら別（大形もしくは小形）の礫を焼く
- ⑥ 礫が熱せられたところで葉に包んだ食料を置く
- ⑦ 草や土をかけて蒸し焼きにする  
適当な時間蒸し上げる。

#### 焼石土坑の復原 3

- ① 土坑を掘る  
地面を掘り窪め穴の大きさを決める。
- ② 材を入れ火を焚く
- ③ やや大形（小形）の礫を入れる  
材を焚きながら入れた礫を焼く。
- ④ 配置を整える  
礫が熱せられたところで配置を整える。
- ⑤ 葉に包んだ食料を置く
- ⑥ 別の場所で焼いた礫をその上に置く
- ⑦ 草や土をかけて蒸し焼きにする  
適当な時間蒸し上げる。

#### 焼石土坑の復原 4

- ① 土坑を掘る  
地面を掘り窪める。
- ② 材を入れて火を焚く
- ③ 礫を入れて焼く
- ④ 別の場所に穴を掘る

### III まとめと考察

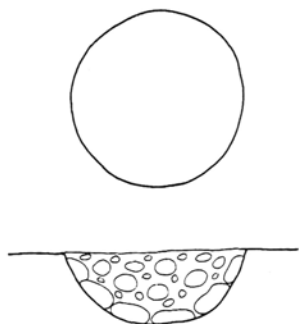
- ⑤ 焼いた礫を別の場所に並べる
- ⑥ 葉に包んだ食料を置く
- ⑦ 草や土をかけて蒸し焼きにする

1～4までのパターンとそのバリエーションのいくつかが考えられるが、問題となるのは礫はその場所で焼かれたものなのか、それとも廃棄されたものなのか、また、調理の跡であるとすればいつの段階で食料を入れるのかということであろう。土坑の途中からまとまって焼けた礫が出土し、壁に焼けた痕跡はまったくないものは廃棄された可能性が高いと考えられる。

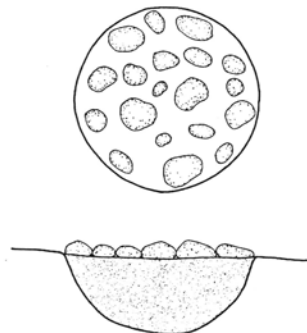
(註)

岩宿遺跡発掘40周年記念で岩宿の資料館用地内で笠懸町教育委員会の若月省吾さんが実際に行った石蒸し料理の状況を思い出しながら復原してみた。その時私は当時明治大学の大学院生であった小菅さん(現町資料館学芸員)と一緒に県立歴史博物館が募集した人々のための石器作りの準備をしていた。そして各自が作った石器で魚をさばき塩を振って銀紙で包んで焼け石の上に乗せ、草と土を掛けて蒸し焼きにした。参加した人々からは昔の人々はこんなおいしいものを食べていたのかという声が上がっていたのを今でも鮮明に覚えている。

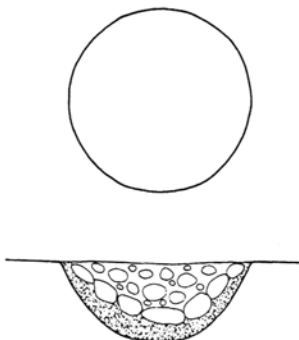
①床面に礫を敷くもの



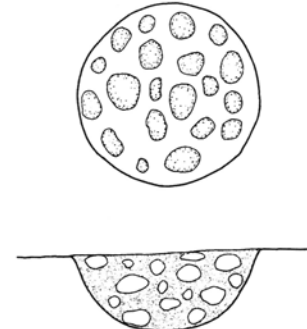
③土坑を埋めた後礫を敷くもの



②床面との間に層があるもの

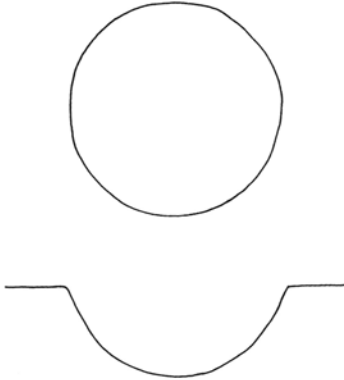


④土層全体に礫が入るもの

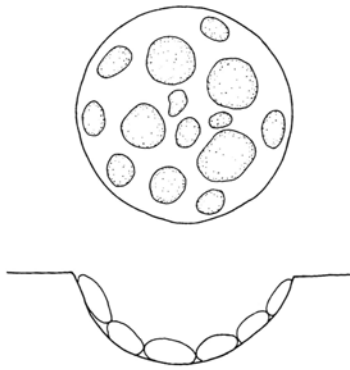


第473図 焼石・集石土坑分類

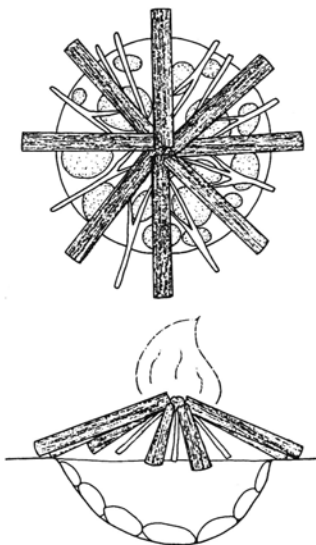
①土坑を掘る



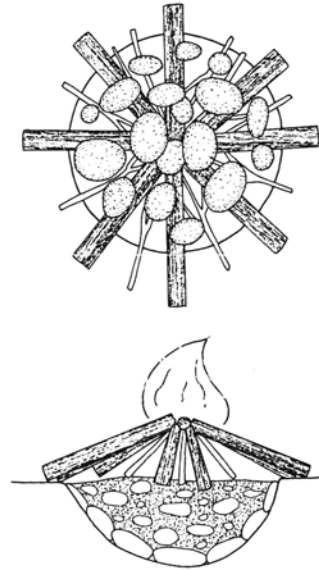
②床面に礫を敷く



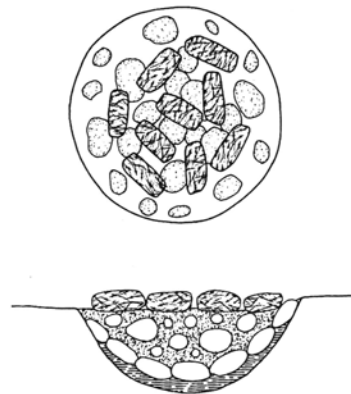
③薪を伏せ焚く



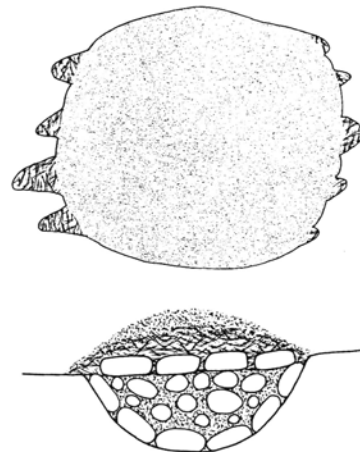
④更に礫を乗せ再び焚く



⑤焼けた礫の上に葉に包んだ食料を置く



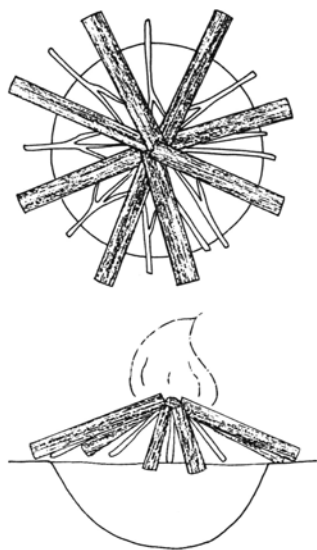
⑥草や土などで覆い蒸す



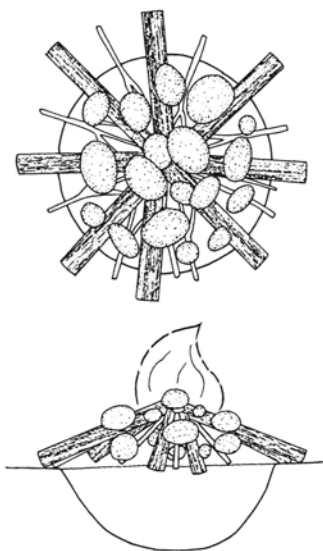
第474図 焼石・集石土坑の復元模式図(1)

### III まとめと考察

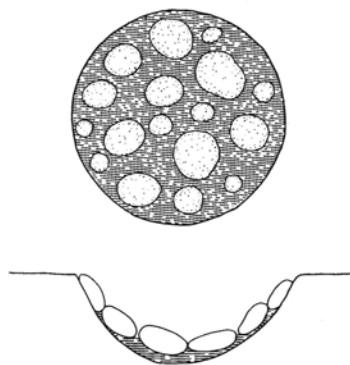
①土坑を掘り薪を伏せて焚く



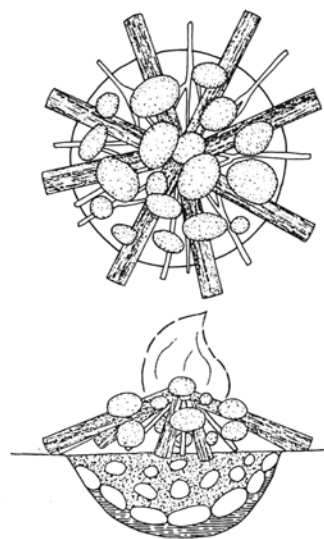
②焚いた薪に礫を入れる



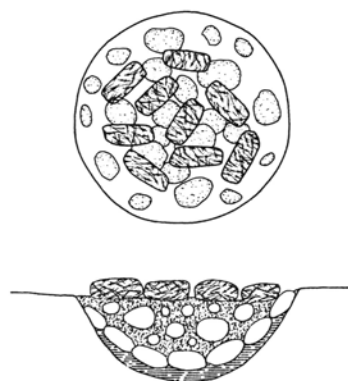
③焼礫を床面に並べる



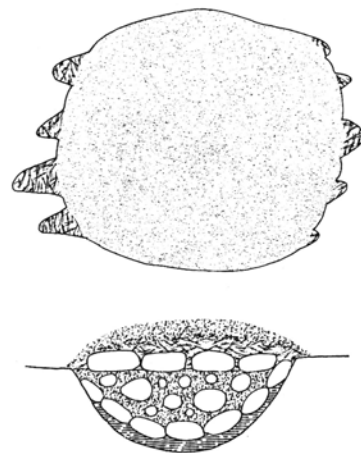
④再び薪を焚き礫を追加する



⑤焼け礫の上に葉に包んだ食料を置く

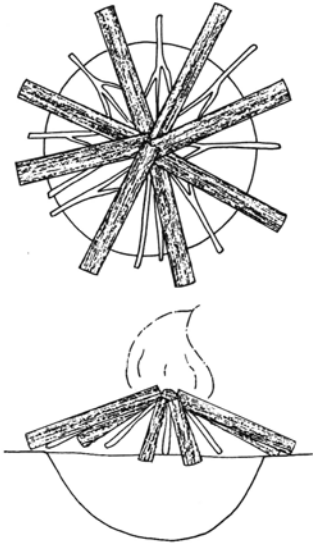


⑥草や土などで覆い蒸す

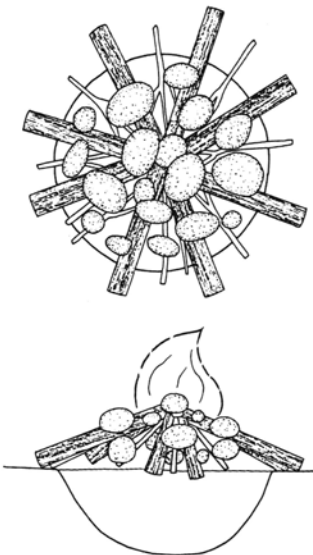


第475図 焼石・集石土坑の復元模式図(2)

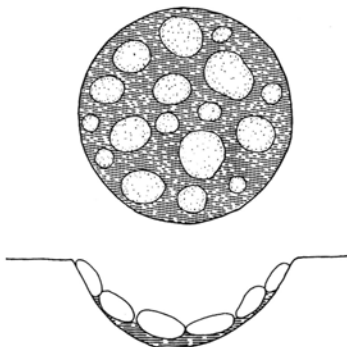
①土坑を掘り薪を伏せて焚く



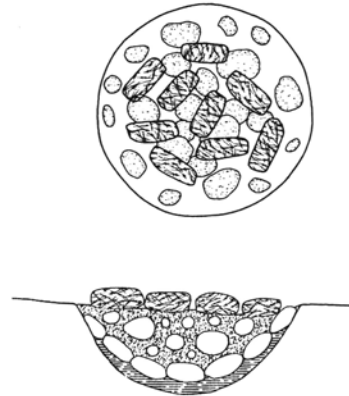
②焚いた薪に礫を入れる



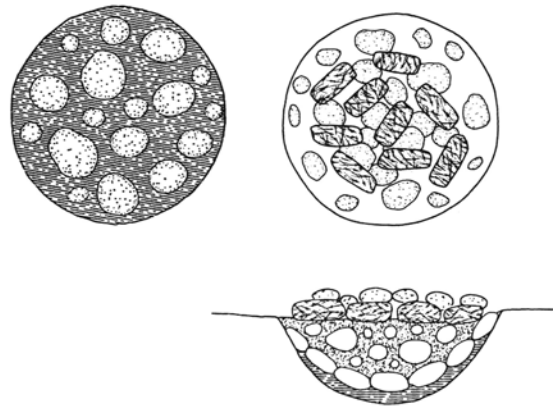
③焼け礫を床面に並べる



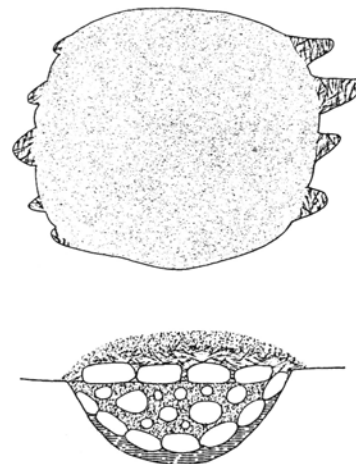
④焼け礫の上に葉に包んだ食料を置く



⑤別の場で焼いた礫を加える



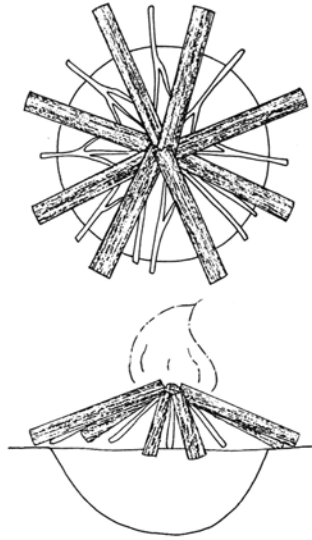
⑥草や土などで覆い蒸す



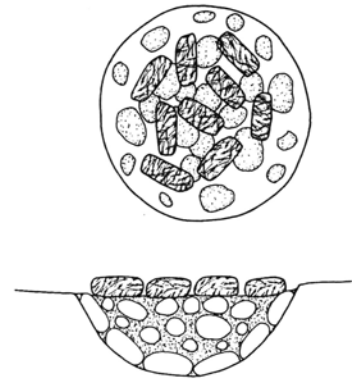
第476図 焼石・集石土坑の復元模式図(3)

### III まとめと考察

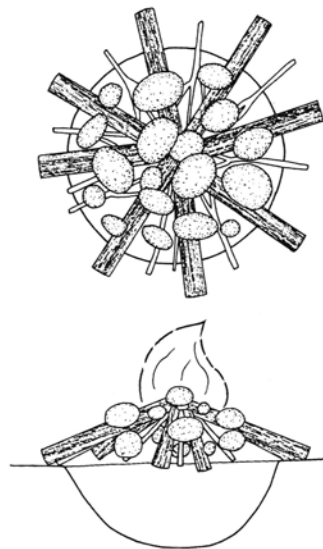
①土坑を掘り薪を焚く



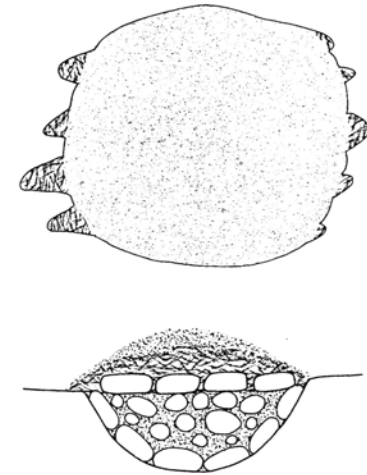
④焼け礫の上に葉に包んだ食料を置く



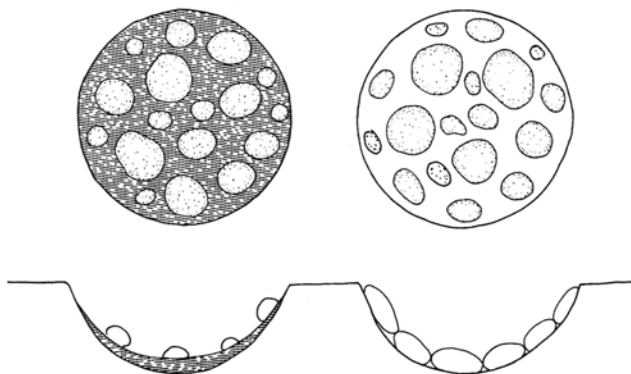
②焚いた薪に礫を入れる



⑤草や土などで覆い蒸す



③別の場所に穴を掘り焼け礫を移動する



第477図 焼石・集石土坑の復元模式図4